

	内容別・課題別の課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙力が高くなく、漢字の定着度が低い。たしかめの小テストでは意味の分からない熟語をそのまま練習している。文章の中で漢字を的確に使えない児童が多い。</li> <li>話すこと・聞くことに苦手意識をもっている。朝のスピーチでは、5秒ほどで終わる児童も多い。相手の話の途中で質問や思ったことを言うなど、話の聞き方や要点をつかむことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たしかめテストでは、クラス全体で意味を確認したり、練習の時間をとったりして、指導を工夫する。テスト後の直しや再テストを繰り返し行うことで漢字の定着を図る。テストで高得点をとることが漢字を覚えることの動機付けの一つとなるよう、意欲が上がるような取り組みを考える。また、文章を書く時に正しく漢字を書けるよう、意味を考えながら使うことを意識させる。</li> <li>話すことの機会を増やし、経験を積み重ねるようにする。その際、出来事だけでなく、感情も合わせて話させるようにする。聞く側の心構えとして、質問することを前提として聞くよう指導する。クラス全体の聞く態勢を整えてから話をしたり、要点をまとめて短く話したりするように教師側が意識するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語教材を指導する際、聞き慣れない言葉の意味を、国語辞典やタブレット端末を活用して調べたり伝えたりした。それにより、語彙が増えるとともに、読解の深まりにも効果があった。漢字テストについては、本番に向けてプリント等で宿題として繰り返し練習をさせて定着を図った。</li> <li>人前で話すことについて、年間を通して日直スピーチ等で経験する場数を踏んでいたため、話すことへの心理的なハードルが確かに下がっていて、それが総合的な学習の時間の調べ学習の発表会でも生かされていた。また、質問力も年度当初に比べて高まっている。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学区域の施設や畑などの地理的環境に関する知識や、東大和市ではたらく人々の様子の知識が充分ではない。身近な土地の使われ方や、人々の暮らしの様子を自分事としてとらえられるようにする必要がある。</li> <li>地図記号や方位の理解が充分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東大和市ではたらく人々の学習では、「自分の生活とスーパーマーケットの関わり」や、「スーパーマーケットでは、どんな仕事のくふうをしているのだろう。」「スーパーマーケットのよいところ」などの側面から、人々が相互に様々な関わりをもちながら生活を営んでいることを理解できるようにする。身近な人々の仕事を調べることで、東大和市の良さを知らうとする意欲を高める。</li> <li>短時間での常時活動を行ったり、地図の読み取りを繰り返し行ったりすることで習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食センターや消防署、昔の道具の見学など、生活を支える仕事や歴史を体験的に学ぶ機会を確保できた。課題としては、身の回りの暮らしの様子や市の歴史について興味をもち、それについてもっと調べてみたいという学習意欲を引き出し、より高めることである。</li> <li>方位については、社会だけでなく他教科や学校生活の中で折に触れて確認するようにして、定着を促している。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算九九の十分な習得に課題がある児童がいる。</li> <li>文章問題では、内容や問われていることを理解したり、整理したりすることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別クラスにおいて、児童の実態に応じて繰り返しかけ算九九を復習し、定着を図る。</li> <li>求められていることに印をつけさせたり、図表やグラフなどに表して問題を可視化したりして、情報を整理させながら問題の意味を理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で復習をしたり、九九表を活用したりしながら定着を図ったことで、年度当初より九九が苦手な児童が減った。</li> <li>図やグラフを自分で書く経験を積ませることで問題の理解を促したが、習熟に差がある点は課題である。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き物の観察において、着眼点が少ない児童がいる。観察して気づいたことについての記述が抽象的である。</li> <li>理科での用語を正しく理解せずに学習を進めている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目で見るだけでなく、実際に触ってみたり、草丈・全長を測ったりするなどの活動を多く取り入れる。着眼点を事前にいくつか挙げ、五感を使って観察できるようにしていく。抽象的な記述については追加発問をし、具体性をもたせていく。</li> <li>図やイラスト、実験などを活用し、用語と具体的なイメージを結びつけるように指導する。テスト前に用語の確認をしたり、テスト後の直しを行ったりしながら定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着眼点を事前に示すことで、具体的な記述ができるようになった。実際に触ったり、タブレット端末で記録したものを詳しく見たりすることで、児童が多くの気づきを得ることができた。</li> <li>用語とイラストを結びつけ、授業内で繰り返し確認することで定着を図った。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱では、元気よく歌うことができるが、まわりの声をきいて合わせることに課題がある児童が見られる。</li> <li>器楽では、リコーダーの演奏について、基礎的な技能を身に付ける必要がある。</li> <li>鑑賞では、楽曲全体についての感じをつかむことはできるが、知覚・感受したことを言語表現することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と声を聴き合う場面を多く設定したり、曲や思いにあった声の出し方を考えさせたりしていく。声を合わせて歌う楽しさや心地よさを感じられるように教材等を工夫する。</li> <li>適切な息の強さやタンギング、正しい運指を覚えて演奏できるよう、友達同士聴き合ったり、適宜、個別に習熟度を確認したりしながら、身に付けていけるようにする。</li> <li>「音楽の感じを表すことば一覧」等を活用し、知覚・感受したことを言語表現する学習を重ねていく。また、豊かな言葉で表現できている児童の発言や記述をモデルとして全体に紹介することで、どのような言葉で表現するとよいかを学んでいくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱では、音楽会の発表などを通して、友達と声を合わせて歌うことができてきた。自然に響く発声を意識させたい。</li> <li>リコーダーでは、一人一人習熟確認しながら進め、多くの児童が基礎的な奏法を身に付けることができた。</li> <li>鑑賞の学習について、感じたことを言葉で表すことはできるようになってきた。知覚したことと感受したことを結びつけられるとよい。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料・用具の使い方を活用できていない児童がいる。</li> <li>発想・技能面での苦手意識をもっている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な材料・用具の使い方などを、動画や板書などを活用し視覚的に分かりやすく伝え、定着を図る。参考作品を授業の始めに提示し、イメージ・見通しをもちながら工夫して表せる環境をつくる。</li> <li>動画や板書で基本的な道具の扱い方を徹底させる。その上で、選択肢を提示し、いろいろな表現方法を試したいと思わせ、意欲的に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品や板書で見通しをもつことで、安心感をもって取り組むことができていた。</li> <li>のこぎり・かなづちなど、新しい道具を使うにあたり、動画での説明で、視覚的にわかりやすく伝え、安全かつ意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きや運動のポイントを理解し、それを活かした動きや運動の仕方を工夫することに課題がある。</li> <li>ペアやグループでの活動に対して協力的でない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画などでポイントを確認してから、活動に取り組ませる。ペアやグループで練習し、互いにポイントを意識したアドバイスをする時間を確保する。</li> <li>複数人で協力して活動することの良さや楽しさを実感できるような活動を考え、実行する。児童の良いところを認める声掛けを積極的に行い、児童同士でも互いに認め合えるような雰囲気作りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボール運動では、教師の問い掛けに反応して考え、話し合い、戦術や作戦について選んだり生み出したりすることができた。器械運動では動画や友達のアドバイスをもとに体を動かすレベルまで引き上げられるよう指導の工夫を行うことができた。</li> <li>協力し合うことが、学習効果を高め、気持ち良く運動できるということを実感させ、教師が価値づけることを年間を通して積み重ね、当初よりもトラブルは減った。</li> </ul>

